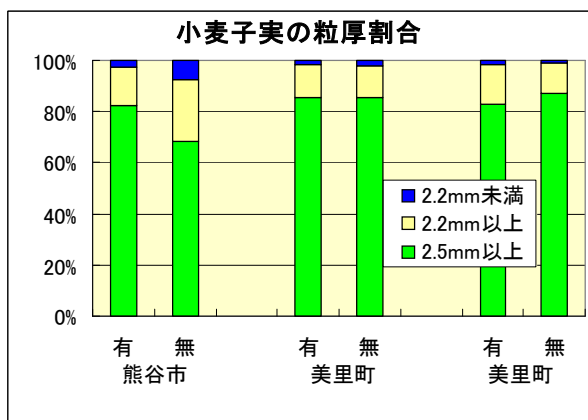
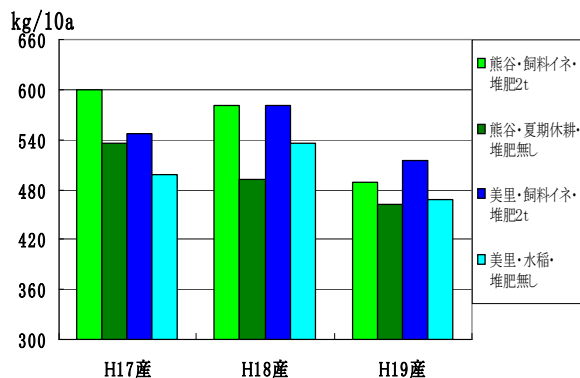


# 飼料イネの作付とたい肥施用は あと作小麦の収量・品質も向上

飼料イネ・麦二毛作栽培体系において、たい肥施用を繰り返すことにより、飼料イネの収量及びあと作小麦の収量・品質が向上することを明らかにしました。

二毛作での作業競合を回避するため、飼料イネ作付け後に牛ふんたい肥を10アール当たり2トン施用することにより、小麦収量は9～17%増収し、子実の外観品質も向上しました。

また、牛ふんたい肥の連年施用は、飼料イネの乾物収量の向上、飼料イネ・麦二毛作生産技術の安定化に効果的な技術であることを実証しました。

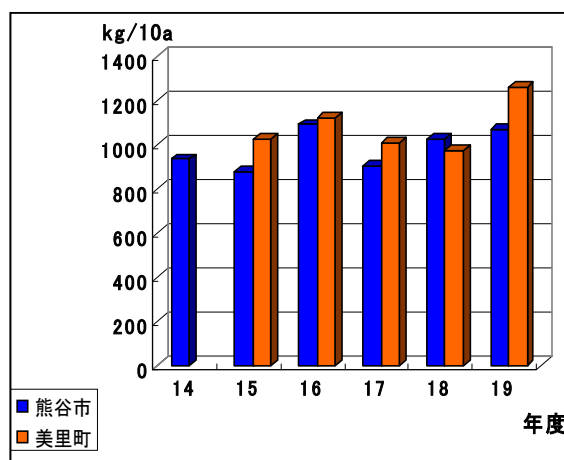


飼料イネの作付とたい肥施用によりあと作小麦の収量が向上

たい肥を施用すると、水田の地力が上がり、飼料イネの収量が向上しました。

飼料イネの作付とたい肥施用によりあと作小麦の品質が向上

たい肥を施用すると、二毛作による裏作小麦の粒の肥大が向上しました。  
(※たい肥施用は、図中の有のグラフ)



飼料イネの収量の推移

5年間の調査データを見ると、稲麦二毛作地帯では毎年収量が増加しています。

飼料イネの栽培技術が定着し、どこの地域でも、10a当たりの乾物収量は1,200kgを超えるようになりました。